

言葉に出して改めて初心に戻ること

コロナ禍、毎夏の一時帰国を今年も見送りこれで2回日本の酷暑を経験することはありませんでした。2回酷暑を経験しなかったという事は、これまで例年させていただいていたセミナー講師の機会も失ってしまった今年、オンラインによるセミナー講師の機会を戴きました。正直な話、ソリューション、プラットフォーム、シンクタンクなどのカタカナ言葉にとっても疎く、そうした私に務まるのだろうか？という思いはあったもの2年一時帰国を見送っているという事はガーナでおこなっている活動を自らの言葉で紹介する機会がなく、他者と比べる気持ちはないものの、また「誰一人取り残さない授業」を実践するもののその自分が取り残されてしまっているのではないかと不安さえ生まれました。そうした中、数年前にガーナに所縁のある女性と知り合い、当時学生だった女性が勤めている会社のイベント企画のスピーチ依頼が入ったのです。イベント趣旨は、アジア・アフリカ各国で活躍する人や多文化共生を実践している人にスピーチをしてもらい多文化共生の魅力を発信するというもの、とても素敵な企画に胸躍りカタカナ言葉に疎いものやってみたくらいと思い依頼の返信をしました。スピーチで語ったのは、工作手芸を通して想像する楽しさを知ってほしいという想い、そろばんの計算力をつける授業の取り組みでは、そろばんを教えるきっかけとなった子どもの「トシコ、10がわかったんだよ。10がわかったんだ。」と言った時のうれしそうなお顔が今でもはっきりと覚えていること、たくさんの本に触れてもらう取り組みでは「地球に支えがないと落ちちゃうから支えが地球にはあるんだよ。」と真顔で言った中学生の話しをしました。たくさんの本に触れることで知らなかった世界の事が知識として入る、そうした想いやきっかけなど含めて語らせていただきました。作成した原稿はインクジェット切れだったため掠れて印刷され、印字がうまくされず手書きで原稿を書くという直前にアクシデントがあり、また目の前に人がいないのに話すことに慣れていないこともあり百点満点のスピーチとは言えないけれど、言葉に出すことによって改めてピュアな気持ちになることが出来ました。そしてスピーチの最後に話した「事を起こすのに遅いということは決してない。」という事も改めて実感しています。私自身の海外渡航デビューが30歳になってから、そして今建設中の図書館も活動当初より思い抱いていた夢の図書館が10年の月日経て建設できる喜びとともに、スピーチでは語らなかった多文化共生の難しさも乗り越え、一步また一步と進んでいこうと思えるのでした。 2021/08/11

ガーナ挨拶 No38 國分敏子



会員登録(無料)していただき無料でご視聴できます。